

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	鳥栖市立基里中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は、コロナ禍の中で学校のあり方が大きく変化した。これを機会に行事の見直しや学校の運営の仕方を見つめ直し、働き方改革を進めていきたい。 ・生徒の学力や生活態度はある程度成果を上げており、落ち着いた学校となっているのは、現在の取組が正しい方向である結果と思われる。今後も、今の状況を続けられるように、チェックを怠らないようにしていきたい。
2 学校教育目標	<p>「誇りと生きる力を身につけ、心身ともに豊かな基里っ子の育成」</p> <p>～元気なあいさつ・時間に敏感・夢に挑戦～</p>
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 小規模校の利点を生かした学力向上 (2) 豊かな心を育み健やかな体づくり (3) 学校・保護者・地域との連携した教育の展開

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修等により、教職員間で情報や授業方法などの共通理解を図り、取組の促進を図る。 ・生徒全員が学びたいと思うような課題設定や教材を工夫し、生徒の興味関心を高める授業を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会において、各学年での基礎学力向上や読解力の向上に向けた取り組みを発表し、成果や課題を検討した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員に対するアンケートの結果、「授業づくりのステップ1・2・3」のステップ3を意識した授業を展開していると回答した割合が約65%であった。
	○読解力の向上のために、理論や方法の共通理解を行い、実践していく。	○読解力の向上のために工夫改善した授業を行い、定期テストに読解力を測る設問を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの授業参観を実施することで、情報交換を図り授業改善を行う。 ・授業や試験問題などで文章、図、表、グラフなどの読み取りを多く取り入れ、読解力を向上させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、定期テストで読解力を問う設問を出題した。また、校内研究会において分析研修を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員に対するアンケートの結果、図表の読み取りや読解力の向上を目指した授業の展開やテスト問題の作成をしたと回答した割合が約78%であった。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●全職員が人権・同和教育の重要性を認識するため、1人1回以上研修会に参加 ○すべてのクラスで「ふれあい道徳」を実施 ○『お互いの良さ』を認め合い、思いやりの心をもって接したり、行動したりして」と回答した生徒80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・担当を中心に、各研修会の案内と参加の呼びかけを行い、研修計画にもついて参加・実施に努める。 ・ふれあい道徳において、道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深める授業を実践する。 ・学年や学級の実情に合わせて、道徳教材の研究を継続的に、情報交換をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で人権・同和教育の研修会を実施。職員は校外の研修会に参加した。 ・ふれあい道徳は12月実施予定。いじめのち集会を11月～1月で月に1回行う予定。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が校内外の研修会に参加した。 ・12月にふれあい道徳を実施した。全校で実施し、保護者の参観もあった。 ・『お互いの良さ』を認め合い、思いやりの心をもって接したり、行動したりして」と回答した生徒は9割以上であった。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ・いのちを考える日」の集会を実施し、思いやりのある生徒の育成を図る。 ・月末に「生活アンケート」を行い、生徒の実態を把握し、いじめの早期発見・早期解決につなげる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ・いのちを考える日」の集会については、今後実施予定である。 ・「生活アンケート」については、細かい点まで担任からの報告を受け、適切に対応できている。データ保管としたことで、働き方改革にもつながった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・他人を思いやる生徒を育成するため、各学年が持ち回りで主催する「いじめ・命」集会を開催した。2学期以降、いじめの覚知はない。 ・アンケートの様式を一部変更し、マンネリ化を防止するとともに、教育相談に繋がるようにした。
●健康・体づくり	①運動習慣の改善や定着化	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業において、運動の意義や効果に触れさせながら、運動習慣の重要性を理解させる。 ・行事の精選と校時を守ることで部活動の時間を確保する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に活動の意義について理解ができた。 ・部活動の時間はほぼ確保している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒は2年生で85%、1年生で90%を上回った。コロナ禍もあり、行事の精選や短縮等が行われ、部活動の時間が確保できたと思われる。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTの日常化と連携による校務の役割分担を行い、時間外勤務を削減する。 ・毎週月曜日の定時退勤日の実践を行う。 ・部活動の計画的な運営と休業日の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働を減らすという意識は定着してきたが、仕事量が大きく減ったわけではないのでさらなる仕事の厳選が必要である。 ・定時退勤は浸透してきた。 ・部活動の週2回以上の休業日は定着している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTを意識しながら業務を行うことで、研修を短時間で行うことができた。 ・毎日の退勤時刻が昨年度より早まり、平日はだいたい19時には施錠できるようになった。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組内容		具体的取組	中間評価		最終評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★地域の方を招いた授業を全クラスで実施する。 ★小学校と連携した授業や交流活動に2/3以上の生徒が参加する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化や人材を生かした体験学習を積極的に行う。 ・小中学校での乗り入れ授業や交流活動を積極的に行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材を生かした授業には11月から取り組む予定である。 ・小中連携の取り組みには1/3の生徒が参加した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに地域の方をゲストティーチャーとして招いた授業を全学年で行った。生徒からの感想も好評であった。 ・小学校との乗り入れ授業は、コロナの影響により計画をすべて実行することはできなかった。
○開かれた学校づくり	○地域と連携した学校づくりの推進	○保護者、地域の方の学校行事への参加者増を目指す。 ○地域の人材を生かした授業や講演会を3回以上設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種たよりや通信、HP、メール等を活用し、行事等の情報の発信を行う。 ・コミュニティスクールの運営を通し各種団体、地域等の協力を図り、教育活動の活性化を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信は定期的に行っている。 ・コミュニティスクールを活用し、地域の協力を推進している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・たよりや通信、HP、メール等を定期的にだすことができた。 ・地域の力を活用した授業や行事を行うことができた。

●...県共通 ★...鳥栖市共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>コロナ禍で活動が制限され、校内における行事や取り組みの規模は縮小されたが、実施することはでき、今年度の目標は概ね達成できた。</p> <p>次年度については、コロナ禍の影響により十分に目標を達成できなかった小中一貫教育の充実を図り、今年度達成できた項目については現状を維持し、より効率の良い取り組みを行ってきたい。</p>
--------------------	--

【様式2】

学校関係者評価書

学校名 鳥栖市立基里中学校

1 学校関係者評価実施状況

(1) 学校関係者評価実施日 令和 4年 3月 22日 (火)

(2) 資料 (評価の参考とした資料)

学校評価計画、アンケート結果、各種テスト結果

2 評価

(1) 学校運営について

①目標の妥当性及び達成状況

概ね妥当である。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

概ね妥当である。

③改善方策の適切さ

概ね妥当である。

(2) 教育活動について

①目標の妥当性及び達成状況

概ね妥当である。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

概ね妥当である。

③改善方策の適切さ

概ね妥当である。特に授業参観をして生徒が意見のやりとりを行って、他人の意見を聞き、考えを深める機会を確保しているのが分かる。生徒にとって重要なことなので今後も引き続き指導を続けてほしい。

3 その他学校に対する意見や提言

コロナ禍でできることの制限が多く、いろいろな大変さがあると思うが、工夫しながら取り組んでいる。中学生に1つでも多くの思い出を作ってもらえるよう地域に住むものとして、協力していきたい。